

学校教育課だより

かけはし



学校教育課だより
「かけはし」
【第10号】
平成31年
2月20日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

豆腐とこれからの

生涯学習

教育部次長兼社会教育課長

瀬戸 進吾



人間の脳と豆腐は水分量が近い... 柔らかさは同じくらいになります。絹ごし豆腐ではなく、木綿豆腐程度の硬さの方が脳みそに近いそうです。玉子豆腐になるな！少ないとも木綿豆腐になれ！」と先生が授業中に力説していたフレーズが思い出されます。玉子豆腐の様に表面をツルツルさせるのではなく、皺(シワ)がある木綿豆腐の様に脳みそへ皺(シワ)を刻みこむように、やる気を出し勉強しろ」と、その先生は言いたかったのだと思います。

「頭のよさは、脳の皺(シワ)の多さ」という説もあり、顔のみに移し換えたい顔のしわ」と川柳で歌われています。実際は、生まれた段階で、既に脳はできあがっているのです。生後いくら勉強しても皺(シワ)は増えないそうです。「勉強」とは、将来のために教わりながら知識を身に付けていくもので、気が進まないことにも精を出し、努めていく姿勢が大切になります。最初はやる気がぜんぜんなくても、とりあえずやってみると、そのうちにやる気がつい

てきます。循環小数で表すと2/11=0.1818(イイイイ)...。かゝの意識変化になります。やる気という感情は人間特有のもので、人間以外は「勉強」が出来ないことになります。学校教育は先生がいて、授業を受けながら、必要な知識を身に付けていくため、「勉強」が必要になります。意図的計画的に働きかけ、望ましい姿に変化させ、能力を伸ばし、教える教育活動が大切であり、教育の中核を担っています。社会教育は、学校教育を除く全ての組織的な教育活動になり、自発的な学習を目指しますが、学習は気まぐれで、やる気がなくてもできます。自分が関心あることしか習わない人もおり、個人差が生じやすいものです。学ぶきっかけ、問題意識をどのように提

供し、習おうという意識につなげていけるかが鍵になります。

学習者の視点で捉えると学校教育・社会教育・家庭教育も生涯学習になります。生涯学習社会を推進している国は平成三十年度「総合教育政策局」を文部科学省に設置しました。生涯学習の理念を踏まえた総合的な教育政策を展開し、課題であった学校教育と社会教育の縦割りを克服していく意向です。

学校教育との連携・融合は、夏目漱石の「草枕」にある「葛湯を練るとき、最初のうちはさらさらして、箸に手応(てごた)えがないものだ。そこを辛抱(しんぼう)すると、ようやく粘着(ねばり)が出て、かきまぜる手が少し重くなる。それでも構わず、箸を休ませずに廻すとも今度は廻しきれなくなる。」と書かれているようになれば良いと感じます。



市指定研究外国語・外国語活動中間発表会(御殿場小・中学校)

指導主事 丹澤 謙志
御殿場小学校の研究主題は

「自他のよさや違いを認め、自らつながり合おうとする子の育成」です。当日は、三年生から六年生の四学級を公開しましたが、五感を使って英語表現そのものを楽しんだり、言葉とジェスチャーを使って思いを伝え合ったりする子供たちの姿が見られました。ALTがつかず、学級担任単独の授業も公開しましたが、児童と教師が自信を持って英語を表現し、お互いに学びの質を高め合っていました。また、廊下や階段にある英語の掲示物や、教師のEタイムによる活動等からも御殿場小学校の研究の充実ぶりがうかがえました。一方、御殿場中学校の研究主題は、「学びの実感を積み重ねる授業・活動づくり」です。今回の中間発表会では、授業公開はしませんでした。御殿場中学校では、より一層小中連携を意識しています。なぜなら、御殿場小学校で学んだ子供たちは、机の上でしっかりと話を聞く授業より、コミュニケーションに活動する授業を得意としてくるからです。そんな生徒の実態を正確にとらえ

それぞれの教科担任が持つ専門性と関係付けながら、子供たちの資質・能力を引き上げようとしています。特に、核となる外国語と外国語活動では、小中学校の教師が事前の指導案作りから関わり合い、研究授業や、事後研修を通して、お互いの理念や指導方法を共有し、一歩進んだ連携の姿を見せてきています。

御殿場小・中学校の両校長先生をはじめとする両校教職員の皆様には、熱心に研究に取り組んでいただき、誠に感謝しております。



## 風薫る

教指導センターから  
指導員 土屋 英次

「教えたがり症候群」を考える  
教師にあこがれ、希望に燃えて着任された先生方は、意欲があります。真面目です。そして一生懸命です。試行錯誤しながら確実に成長していきます。でも空回りすることも

あります。なぜでしょう。

「私が主導しなければ」「教師は教えるのが仕事」「教師押しつけの課題」「教師と生徒の1対1の関係だけで生徒と生徒の横のつながりが無い」等、こんな考え方や姿が見え隠れするのですが、心当たりがありませんか？要するに、教師の敷いた路線で学ばせたい。そしてはみ出すことを嫌う。

生徒はやらされている感が強く、一方的に知識などを押し付けられ、意欲的になれない。となつていませんか。

### 「生徒が主体的に考え、交流し深める、問題解決的な学習」

高根中学校小澤俊晃先生は、一年数学の授業の導入に、シユレットダーで裁断された大きなビニール袋いっぱいのごみを教室に持ってきて、「この袋の中には、A4用紙何枚分の紙があるのでしょうか」と投げかけました。(五百枚のコピー用紙の束も同時に提示)生徒は、目を輝かせ、身を乗り出して解決方法を考え始めました。たくさんつぶやきが聞かれ、「ゴミの重さ、五百枚束

の重さを教えてください。」の発言から、その情報を基に、生徒が自由に歩出して交流し、比例の考え方を中心とした三種類の解決方法が生徒主体で見出され、代表の生徒が黒板で紹介しました。教師の見守りや支援、ヒントなど個に対応した対応は、見られました。が、授業のほとんどの時間が生徒主体の活動であり、交流(学び合い)でした。

【評】 当日の授業では、教師が話した時間は全部で十分程度です。後は全て生徒が主体の学習活動でした。そこに深い学びが成立します。そこで学んだ比例の考え方の活用は、生徒自ら考え、解決したことなので定着も高くなります。

【評】 教師が押し付けた課題のように見えますが、大量のシユレットダーゴミを生徒の前を持ってきて「A4用紙何枚分か？」と問う、「ライブの学び」とでも言いましょうか。そのインパクトが生徒の心を揺さぶり興味を持たせ、自らの課題に落とし込まれていきます。実際に生徒の目の輝き

が変わりました。

### 「生徒主体の体験的な活動を通して、学びが深まる」

富士岡中学校の鈴木拓也先生は、三年の「保健体育」で「薬物乱用と健康」がテーマの授業を行いました。導入では、「酔っ払いメガネ」を男子生徒にかけさせて、教室の中央を歩かせました。歩く途中に「二つ行為を行わせましたが、

「酔っ払いメガネ」のせいで達成できませんでした。その体験活動から本時の課題にのめり込んだ生徒が「薬物乱用の害」をまとめました。その後、全員が薬物勧誘側と誘いを受ける側に名札をつけて、役割演技をさせました。いかに巧妙に誘い文句を述べるか、どうやって断るかリアルな疑似体験が行われました。役割演技のリアルな体験活動を通して、どんな誘い文句があったのか？それに対してどうやって断ったのか？の事例を全体の前で発表させました。さすがが三年生で、巧妙な誘い文句や断りの言葉が紹介されました。

【評】 保健の授業は、講義をしてノートにまとめて終わることが多いのですが、鈴木教諭は、「酔っ払いメガネ」の体験から入りました。生徒全員が「薬物」の課題意識を持つことができました。

【評】 「薬物の誘い方、断り方を考えよう」が中心の授業であり、中学校三年生に役割演技を組織して、考えさせました。真剣に、そしてよく考えられた誘い文句、断りの文句が発表され、こんなにも深く考えられるのだと感心させられました。人ごとでない、我と我が身に重ね合わせた学びができました。

### 高根中・富士岡中の授業で共通している学級づくり

高根中での自由に出歩いての生徒同士の交流、富士岡中の全員がそれぞれの立場で役割演技を同時に行う活動。誰ひとりとして、別なことをしている生徒はいませんでした。全員がその課題に真剣に向き合う学習集団としての土台が出来ていました。

